

ちばセンセイの健康ワンポイントアドバイス

先日当院は休日当番病院でした。お子さんを中心に溶連菌が流行っていますが、全国的にはウイルス性のヘルパンギーナも流行っているようです。下火にはなりつつありますが、おたふく風邪のお子さんもいます。1歳になってから予防接種を打つことになっていますが、それだけでは不十分だと考えられるようになってきました。公的負担は受けられないのですが、小学校に入る前の年に、2回目の予防接種を受けた方が良いと小児科学会では考えているようです。また胃腸炎も流行っています。食中毒というのとは違いますが、うがい手洗いはしっかりしましょう。

さて今回も過敏性腸症候群のお話です。お通じが関係するのが原則で、下痢型、便秘型、混合型、分類不能型に分けられます。どのタイプなのかによって使う薬も当然違います。下痢型には下痢止め、便秘型には下剤、混合型・分類不能型には抗コリン薬を使うことが多いです。

お腹の調節をするのは上に書いたような薬ですが、過敏性腸症候群は精神的ストレスが強く関与する 경우가少なくありません。ですから、お腹の調節をする薬だけで良くならない場合には、抗うつ剤や抗不安薬を処方することもあります。

高血圧症や脂質異常症、あるいは糖尿病の薬はとても効果的なのですが、過敏性腸症候群は自分に合う薬を見つけるまで時間がかかることがあります。早く良くなりたいという気持ちは当然のことですが、治療途中で病院を替えてしまうと、また一からやり直しということにもなるので、かえって治るまでに時間がかかることがあります。主治医とじっくり話しをするようにしてください。